

株式会社 ST パートナース
行政書士法人 ST パートナース

SDGs への 取り組み no.4

前年度活動報告

<https://www.sdgs-spirt.tokyo>

◆2020年度 カードゲーム参加者合計

第1回 3月24日	第2回 7月3日	第3回 8月28日	第4回 12月3日	合計
19名	30名	8名	14名	71名

◆SDGs 認知度推移



SDGs への取り組み初年度を振り返って

代表・笹口哲也

私たちが「SDGsへの取り組み」第一号を発行したのが、2019年12月でした。そして、2020年から中小企業に対してSDGs経営の導入支援を本格的に行っていく予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で大きく出鼻をくじかれる結果となってしまいました。

しかし、SDGsに取り組んだことによる良い成果や、また改善しなければならぬ課題も見つかるなど、一年間の活動を通して見えてきたことが多くありました。

【SDGsの社内取り組みを通して分かったこと】

SDGsに取り組み始めた当初から「5・ジェンダー平等を実現しよう」をゴールの一つとして掲げ、様々な立場の女性にとって、働きやすい職場環境となるように取り組んできました。その一つの手段として、在宅勤務ができるようにネットワーク環境の整備やサーバーのセキュリティー対策に取り組んだ結果、予想もしなかったコロナ禍における緊急事態宣言下（一回目）の最中でも、リモートワークの実施にスムーズに移行することができました。当時はスタッフ2名が妊娠中でしたので、通勤せずに仕事ができることに非常に感謝をされました。

しかしながら、在宅勤務組と出勤組の間に溝が生まれてしまったのも事実で、この取り組みの恩恵を受けられなかった出勤組のスタッフ2名が、当事務所を去る結果となってしまいました。コロナ禍における人事マネジメントの難しさ、特にコミュニケーション不足の課題に悩まされた1年となりました。

そのため、従業員とのコミュニケーション不足を改善すべく、「職場の基礎代謝®」改善ファシリテーターや、「実力発揮マネジメントカード」ファシリテーターの資格を取得しました。このツールを使って、職場の不を改善し、スタッフそれぞれの実力が発揮できる職場とすることで、SDGs「8・働きがいも経済成長も」のゴールを目指していきます。

また、人事マネジメントの難しさを経験して、スタッフに事務所の経営理念や、SDGsの活動に共感してもらうことの重要性に気がきました。この反省点を生かし理念採用を徹底した結果、コロナ禍においても優秀な新スタッフを採用することができ、組織としても成長に繋がったと感じています。

経営理念にSDGsの理念を取り入れることの有用性を、身をもって証明する形となりました。

【SDGsカードゲームを主催して見えてきたこと】

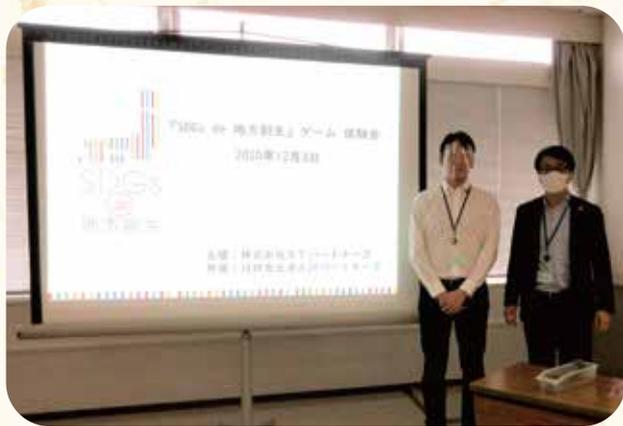
2020年はSDGsカードゲーム体験会を計4回主催しました。ファシリテーターを複数回経験することで見えてきたことがあります。

SDGsカードゲームを体験することは、次世代リーダーの育成や人事採用戦略にも有効だということを、声を大にしてお伝えしたいと思います。カードゲームは現実世界のシミュレーションです。与えられた役割の中で、どの様に行動するか、その人の本質が如実に表れます。そして、ゲームの振り返りを通じてそれまでの自分の行動を内省し、今後の行動変化に繋げることができます。

社内で次世代リーダーを誰にするか、新規採用者のどこを見ればいいのか、などの悩みを抱えている経営者、人事担当者の方にSDGsカードゲームは大変お勧めできる内容となっています。ぜひ一度、カードゲームの体験会にいらっしやってください。

【結びにあたり】

2021年もコロナ禍の収束があまり期待できず、先行きは不透明ですが、SDGs経営を中小企業へ導入するための活動を地道に行っていきます。皆さまも2021年は、SDGsの活動に一步踏み出してみませんか？ご相談はお気軽に。お問い合わせ、お待ちしております！



介護と仕事の両立に直面して！

吉田寿恵（補助者・スタッフ）

昨年、息子も成人し子育ても一段落したところで、今度は本格的な親の介護生活がはじまりました。

前職は、受験塾の運営に携わっていたため、夜が遅くなることも日常で、急なお休みをとることも難しく、いつ何が起こるか分からない介護をする上で、常に不安を抱えて働いていました。本来であれば、仕事を辞め、介護に専念したいところでしたが、自分たちの生活や息子の大学の学費等を考えるとそういうわけにもいかず、日々このままでいいのかと思い悩むばかりでした。

【週4日の勤務スケジュール】

そんな折、現在の状況を理解し働きやすさを提案してくれたのが当社でした。週4勤務社員（現在、週4勤務正社員の制度化を検討中）として、勤務スケジュールも半月ごとに申請、急用の場合は出勤日の変更や欠勤も随時可能というものでした。

2020年9月に入社して、日々多忙な中ではありますが、業務に責任を持てば、自己責任・自己管理で進められ、スケジュールも自ら組み立てることができ、代表との距離も近いので普段の会話からお互いの状況を共有することもできています。また、コンサルティングでも使用している「実力発揮マネジメントカード」をツールとしたユニークな面談も行われ、私たちスタッフとの積極的な対話も成されているので、こちら側もその誠意にきちんと応えたいと自然に思わせてくれる職場環境です。

【カードゲームの体験を通して】

先日、当社で主催する「SDGs de 地方創生カードゲーム」に初めて参加しました。SDGsについてほとんど知識のなかった私でも、刺激的で非常に面白く学ぶことができました。この体験を通してSDGsに積極的に取り組む会社だからこそ、多様な働き方を受容し実践していることも理解することができました。

日本においてもジェンダー平等が謳われるようになりましたが、まだまだ女性は、出産、育児、介護などの環境の変化に左右され、仕事と両立し継続していくことは難しい現状です。SDGsの考え方や理念が年代や性別を問わずもっと広がり、何人も働きづらさを感じることなく、生涯生き甲斐をもって暮らせる世の中がくることを願い、私自身もその一例となれるよう精進して参ります。

第4回 SDGs de 地方創生 カードゲーム体験会・開催報告

去る12月3日、カメラプラザ（亀戸駅徒歩1分）にて、第4回「SDGs de 地方創生 カードゲーム」体験会を開催いたしました。当日はコロナ渦の状況下でしたが、お申し込みの皆様全員に足を運んでいただき、スタッフを含め計19名の参加となりました。

今回は遠く九州地方から参加下さった方がお住いのF市をモデルに、2030年以降も持続可能な街として存続するためのミッションを皆様に挑戦していただきました。

4回目の参加者には、経営者、企業のSDGs担当者や、士業の方が多く、既に他のSDGsカードゲームや社内研修等を体験されていました。その影響でしょうか、参加者同士のコミュニケーションも円滑で、序盤から他チームへの交渉も積極的に行われていました。しかし、「地域状況メーター」の特に「人口メーター」は、ターン毎に減る一方でなかなか上がりませんでした。参加者はなぜ上手いかないのだろうと、それぞれの立場で出されている課題を見つめ直したり、行政プレイヤーと協力して資金や人材を集め、ミッションを実行しようと駆け巡っている姿が見られたりと、会場がいつも以上に熱気に覆われました。

参加後のアンケートでも、多くの方から楽しく学べ、SDGsやまちの課題が自分事のように感じる事ができ、またその重要性和明日の行動変容に結びついたと評価していただきました。

「SDGs de 地方創生 カードゲーム」は初心者の方でも、リピーターの方でも楽しみながら、最短でSDGsを理解できるカードゲームです。今後も定期開催していく予定ですので、皆様のご参加、心よりお待ちしております！